奈良医大の講座別 欧文原著論文篇数 （平成17年～平成18年4月） 学報 vol.19より

研究部長　東野 義之

れた共同研究の実態を調査
共同研究を行っており、5
第一・第二生理学、病
テム医科学、第二内
眼科学、小児科学、皮膚科学、
耳鼻咽喉科学、口腔外科学、放射線腫瘍医学、地域看護学の24講座等で、全体の34％にあたります。

外国の研究機関との共同研究を調べてみると、3以上の外国の研究機関と共同研究を実施している講座は第一解剖学、分子病理学、RI実験施設、生命システム医科学、整形外科学、産婦人科学、小児科学、皮膚科学の8講座等です。

各部門の共同研究件数の平均を比較すると、先端医学研究機構が最も多く、臨床医学、基礎医学、一般教育、看護学、病院の順に減少しています。

本学の各講座等の平成17年と平成18年（1月から4月まで）の業績を調べますと、図2のように、20篇以上の欧文原著論文を出版しているのは、第二生理学、薬理学、分子病理学、第二内科学、第三内科学、神経内科学、脳神経外科学、小児科学、皮膚科学の9講座です。

各部門の欧文原著論文篇数の平均を比較すると、臨床医学が17.0篇と最多であり、次に基礎医学、病院、一般教育、看護学の順に少なくなっています。

各講座の教員等の数が異なるので単純には比較できませんが、本学の研究の現況を示していると思われます。法人化後研究の重要性が増しますので、学内、国内、外国の研究機関との共同研究が益々活発になることを期待しています。

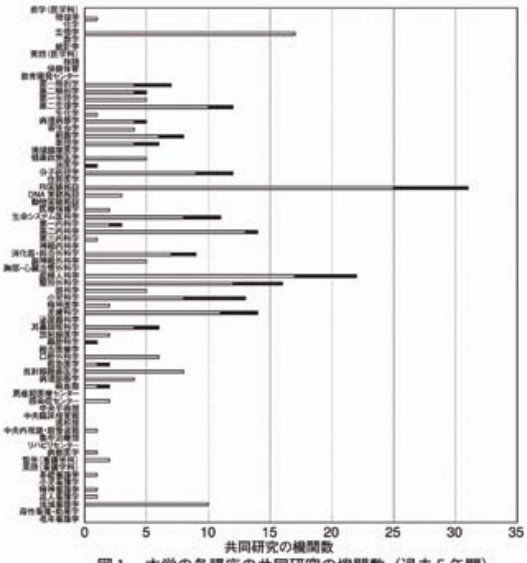

図1．本学の各講座の共同研究の機関数（過去5年間）。
白は国内の研究機関、黒は外国の研究機関を示す。

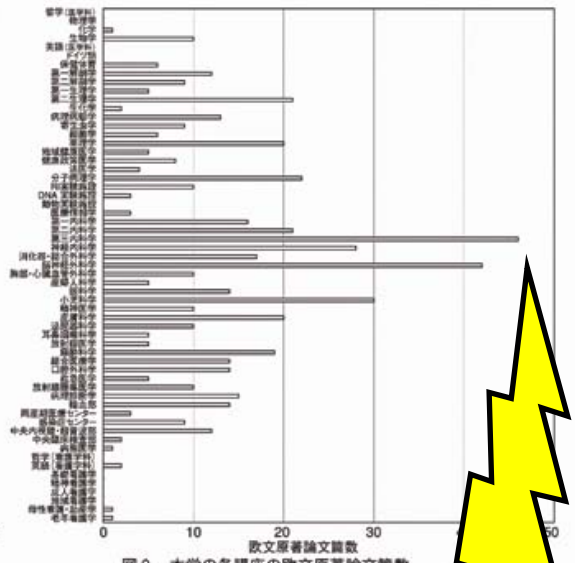

図2．本学の各講座の欧文原著論文篇数
（平成17年と平成18年の1月～4月まで）

第三内科は 学内トップ！！

ホ　オ　ジ　ロ

【ホオジロ通信のいわれ】

ホオジロの鳴き声は「イッピツケイジョウツ
聞こえるといわれます。本学教職員および関係
この欄をホオジロ通信と名付けました。